



経済日誌

2024年6月15日～2024年7月14日の主な出来事(新聞記事等より)



6.20 熊本市の観光消費 934億円

熊本市がまとめた2023年の観光消費額は前年比52.1%増の934億円で、過去最高を更新した。宿泊者数の353万人(35.4%増)と、外国人宿泊者数の43万4千人(9.2倍)も過去最多だった。観光消費額は観光客が使う交通費や宿泊料などの総額で、これまではコロナ禍前の19年の826億円が最高だった。

6.21 菊池地域 農地転用164ha

熊本県はTSMCの菊陽町進出が決まった2021年10月以降、菊池地域の2市2町で計164haの農地が別用途に転用されたと明らかにした。周辺農地の売買が加速し、地権者と農家の間で賃借契約の解除が発生している。県は営農継続を希望する農家を支援するため、代替農地を探すエリアを周辺市町村に拡大している。

6.22 消費者物価 3カ月ぶり伸び率拡大

熊本県統計調査課が発表した5月の熊本市の消費者物価指数(2020年=100、生鮮食品を除く)は、前年同月比2.6%上昇の107.1だった。前年を上回るのは27カ月連続で、伸び率は3カ月ぶりに拡大。エネルギー関連の上昇が押し上げ、電気代の伸び率は17.0%と1年4カ月ぶりに2桁となった。

6.29 県への移住 最多2749人

熊本県は2023年度に県内へ移住した人が過去最多の2749人だったとする推計値を取りまとめ、県議会地域活力創生特別委員会で報告した。市町村の転入者向けアンケートや、市町村の移住施策の利用者数を基に、転勤や進学による転入者を除いて算出。移住者の推計値を出し始めた19年度は2074人だった。20年度はコロナ禍の影響で1620人に減ったものの、21年度以降は増加傾向にある。

7.2 県内景況感 2期ぶり改善

日銀熊本支店が発表した6月の県内短観は、景況感を示す業況判断指数が全産業でプラス29と、1991年8月以来、約33年ぶりの高水準となった。3月の前回調査から9ポイント上昇。DIの改善は2期ぶり。また、同時に発表した7月の金融経済概観は「回復している」として前月の判断を据え置いた。

7.6 企業倒産 県内はTSMC効果で減少

東京商工リサーチ熊本支店が発表した2024年上半年期の企業倒産件数は、前年同期比4件減の38件、負債総額は50.6%減の44億6100万円となり、倒産件数、負債総額ともに3年ぶりに減少した。倒産件数が10年ぶりの高水準となった全国と違う傾向が出ていることについては、半導体関連企業の進出が影響したとされる。

6.26 TSMC第2工場 造成開始

TSMCは、第2工場の敷地の造成工事を始めた。経済産業省によると、第2工場の敷地面積は約1000坪で、投資額は約500億円、1000人規模。また、第1工場の量産開始や第2工場への移転も進んでいる。熊本県は、今年の新卒採用が前年を上回る500人超の新卒採用を計画している。

7.11 県内賃上げ 32年ぶり4%台

連合熊本が発表した2024年春闘の最終集計で、熊本県内の労働組合の賃上げ率は、定期昇給を含む平均で3.5%に達した。これは1991年以来32年ぶりに4%台に達した。賃上げ額は前年を1925円上回る月額1万2501円となり、2年連続で1万円を超えた。連合熊本は「全国的な賃上げの流れが、熊本県の地場中小企業の交渉にも波及した」とみている。

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

6.26 菊陽町の在留外国人 166人増

菊陽町は町多文化共生推進協議会が発表した6月の在留外国人の増加を報告した。町によると、前月の外国人は150人で、この月は166人に増えた。増加は外国人労働者の増加によるものとみられている。

7.11 水戸村ロコ、青学大と走る

水戸村ロコが青山学院大学と走る。水戸村ロコは、7月11日に青学大と走る。水戸村ロコは、7月11日に青学大と走る。水戸村ロコは、7月11日に青学大と走る。

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)